



## 「教育課程に係る教育時間」後の「教育及び保育」

「教育課程に係る教育時間」後の「教育及び保育」については、「第2章1 .  
(2) 園児の理解を基にした「指導計画の作成」 「教育課程に係る教育時間」  
前後の指導計画に視点を当てて考える」を参考に、指導計画や環境の構成を考えて  
いきましょう。

ここまで示してきたように、年齢や時期によって、環境を構成する際に大切にしたいポイントは変化していきます。しかし、各年齢や時期に応じて環境を構成していくことは大切なことですが「3歳児はこの環境」「4歳児はこの環境」と、年齢や時期だけにとらわれてしまうと、環境を構成する上で大切にしなければならない「園児の発達の状況に応じたふさわしい環境」を構成することが難しくなってしまうことも考えられます。年齢や時期も考慮した上で、環境を構成する際に基盤となるのは、「園児の理解」であるということ意識し、園児の発達の状況を的確に捉えた上で、今の園児にとって必要な体験にふさわしい環境を構成していくことが大切です。

「教育課程に係る教育時間」後の「教育及び保育」の週案・環境図を参照

「教育課程に係る教育時間」後の「教育及び保育」の週案

令和●年度 アットホームタイム週案 4・5歳児●組 指導週案・週の記録 [在籍]●名(年長児:●名 年中児:●名) ●月●日(●)～●月●日(●) ※日によって預かりの1号認定利用児●名程度も利用する。

●月●日(●)～●月●日(●) 園長印 副園長印 担任:○○○○

前週の姿	<p>○コマを作って回して遊ぶ子はだんだんと少なくなり、製作コーナーで遊ぶ子の興味は乳酸菌飲料の容器を使っての製作に向いている子が多い。また、年長を中心に自分たちでルールを作って遊ぶとする姿が見られる。しかし、自分の思い通りに遊びを進めたい気持ちや勝敗へのこだわりから、他児の意見を聞かずに遊びを進めてしまう子の姿も見られる。</p> <p>○年長児が乳酸菌飲料の容器での製作や積み物遊びを始めたため、廊下でコマ回しをして遊ぶ子の姿が少なくなってきた。代わりに空いた廊下のスペースで年中が引きコマ遊びをしている。その姿を見た年長がキノコ輪回し等の回し方を年中に教える姿が見られた。</p> <p>○年中女児が人形を使って遊ぶが人形が足りずに言い争いになる。以前作ったカラーポリ袋での製作を提案すると、「それなら知ってる」と言って作り出す。出来上がりまでに時間がかかってしまうが、次の日の○○組での活動に期待をもつことにつながっている。</p>	週の内容	<p>○自分のやりたい遊びを見付け、意欲的に展開していく。</p> <p>・自分で遊ぶ物を作ったり、異年齢児の遊びから刺激を受けたりしながら遊ぶ。</p> <p>・保育者や友達と一緒に簡単な製作遊びを楽しむ。</p> <p>・自分のやりたいことに意欲的に取り組み、遊ぶことを楽しむ。</p> <p>○異年齢児との関わりを深め、自分の意見を伝えながら様々な遊びを楽しむ。</p> <p>・同じ空間で遊ぶ中で、5歳児・4歳児共にお互いの遊びを見たり、一緒に遊んだりしてみる。</p> <p>・異年齢児の遊びを見ながら、徐々に遊ぶものを自分たちで考えながら作っていく。</p> <p>○戸外で体を十分に動かして遊ぶことを楽しむ。</p>	
環境の構成及び保育者の援助	<p>○めんこは既製品を用意し、子どもたちがめんこに親しむことから始めてみる。興味をもった子が自分たちでも作って遊べるようにめんこの素材(牛乳パックの底を2枚つなげた物)を準備しておく。</p> <p>○めんこの投げ方は遊びの中で自分たちでコツに気付いたり、工夫したりできるように見守ったり、適宜保育者が見本になっていく。</p> <p>○雪の結晶をノートに貼るだけでなく、オナメントのように透明ファイル等の素材を準備する。</p> <p>○昔の路地裏遊びのイメージでキャップコマやめんこ等、子どもたちが縦のつながりをもちつつ、自分たちだけで盛り上がりながら遊ぶような遊びを設定していく。</p> <p>○校庭に行く際は、年長と年中が手をつないで行く。また、走っている間は子どもたちと一緒に走る保育者と、子どもと逆走して(タッチしながら走る)走る保育者に分かれる。</p> <p>○5歳児の中には5歳だけで遊びたいと思っている子がいるので、その気持ちや大切に場を設定していく。その中でも4歳が5歳の遊びの様子を見られるようにしていく。また、一緒に遊ぶことを強要せずに、一緒に遊びたい気持ちをもちている子がいることは伝えていく。</p> <p>○ワゴンの色画用紙やペン等、絵本作りに使える素材を十分に用意し、好きな遊びをする中で足りない物が無いように子どもが遊び込めるようにしておく。</p> <p>○はさみについて…5歳児は自由にワゴンの物を使う。</p> <p>4歳児ははさみを使う机を一つにし、担任もしくは会計任用職員が付き、使い方を丁寧に見ながら使えるようにする。</p> <p>○直線や曲線等ははさみを使い始めた4歳が切れる物、切った物を遊びに使えるような物を考え設定する。</p> <p>○遊び出せずにいる子どもには保育者が誘って遊んでみたり、年長の遊びに入れてもらったりする。また、保育者側からアイデアを出しすぎず、子どもの発想を大切にしていく。</p> <p>○15時30分からのワゴンにボードゲーム、カードゲームを設定する。その他の運番玩具はカバーを掛けておき、16時30分から使用できるようにしておく。</p> <p>○物の使い方や部屋の片付け等、子どもたちが自分で意識できるように繰り返し丁寧に言葉をかけていく。</p> <p>○遊びの中で子どもたちの持っているイメージを子ども自身または保育者が言葉にして子ども同士をつなげていく。</p> <p>○今まで築いてきた異年齢の関係を更に深められるように、一緒に体を動かす等の機会を増やしていく。</p> <p>○友達とのトラブルがあったときには、自分の言葉で相手に伝えられているところを褒めながら、相手の言葉を聞いたりと一緒に気持ちを整理して互いの思いを知ったり返すことができるようにする。</p>	週の内容	<p>○めんこは既製品を用意し、子どもたちがめんこに親しむことから始めてみる。興味をもった子が自分たちでも作って遊べるようにめんこの素材(牛乳パックの底を2枚つなげた物)を準備しておく。</p> <p>○めんこの投げ方は遊びの中で自分たちでコツに気付いたり、工夫したりできるように見守ったり、適宜保育者が見本になっていく。</p> <p>○雪の結晶をノートに貼るだけでなく、オナメントのように透明ファイル等の素材を準備する。</p> <p>○昔の路地裏遊びのイメージでキャップコマやめんこ等、子どもたちが縦のつながりをもちつつ、自分たちだけで盛り上がりながら遊ぶような遊びを設定していく。</p> <p>○校庭に行く際は、年長と年中が手をつないで行く。また、走っている間は子どもたちと一緒に走る保育者と、子どもと逆走して(タッチしながら走る)走る保育者に分かれる。</p> <p>○5歳児の中には5歳だけで遊びたいと思っている子がいるので、その気持ちや大切に場を設定していく。その中でも4歳が5歳の遊びの様子を見られるようにしていく。また、一緒に遊ぶことを強要せずに、一緒に遊びたい気持ちをもちている子がいることは伝えていく。</p> <p>○ワゴンの色画用紙やペン等、絵本作りに使える素材を十分に用意し、好きな遊びをする中で足りない物が無いように子どもが遊び込めるようにしておく。</p> <p>○はさみについて…5歳児は自由にワゴンの物を使う。</p> <p>4歳児ははさみを使う机を一つにし、担任もしくは会計任用職員が付き、使い方を丁寧に見ながら使えるようにする。</p> <p>○直線や曲線等ははさみを使い始めた4歳が切れる物、切った物を遊びに使えるような物を考え設定する。</p> <p>○遊び出せずにいる子どもには保育者が誘って遊んでみたり、年長の遊びに入れてもらったりする。また、保育者側からアイデアを出しすぎず、子どもの発想を大切にしていく。</p> <p>○15時30分からのワゴンにボードゲーム、カードゲームを設定する。その他の運番玩具はカバーを掛けておき、16時30分から使用できるようにしておく。</p> <p>○物の使い方や部屋の片付け等、子どもたちが自分で意識できるように繰り返し丁寧に言葉をかけていく。</p> <p>○遊びの中で子どもたちの持っているイメージを子ども自身または保育者が言葉にして子ども同士をつなげていく。</p> <p>○今まで築いてきた異年齢の関係を更に深められるように、一緒に体を動かす等の機会を増やしていく。</p> <p>○友達とのトラブルがあったときには、自分の言葉で相手に伝えられているところを褒めながら、相手の言葉を聞いたりと一緒に気持ちを整理して互いの思いを知ったり返すことができるようにする。</p>	
2月15日(月)	2月16日(火)	2月17日(水)	2月18日(木)	2月19日(金)

